

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

福井県坂井市

○学校名

坂井市立三国西小学校

○学校のURL

<http://www.mikuninishi.ed.jp>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各1学級、【特別支援学級】1学級、【合計】7学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】165人（平成27年11月20日現在）
（内訳：1年生30人、2年生26人、3年生30人、4年生24人、
5年生26人、6年生27人、特別支援学級2人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成26、27年度 人権教育研究推進事業人権教育研究指定校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

※学校としての教育目標、人権教育に関する目標、標語などを御記入ください。

【学校の教育目標】

「智 本質を知る心」 「徳 調和した心」 「体 心を支える丈夫な体」

【人権教育に関する目標】

- 互いの人権を大切にし、認め合い、支え合う子を育成する。
- 身近な人権課題を知り、人権を尊重するためによりよく行動する子を育成する。

○人権教育に係る取組一口メモ

互いを認め合い、共に成長しようとする子の育成
～授業や集会活動等で相手の立場を想像する活動を通して～

○人権教育にかかる取組の全体概要

① 学びづくり部会の主な活動

- ・ 学力向上…分かりやすい授業の工夫・個別指導・長期休業中の学習会
朝読書、朝学習の充実・月末漢字計算テスト・算数WEBテスト
- ・ 人権学習（人権に関する知的理解、人権感覚の育成）…人権学習の推進
校内研究授業の充実・人権教育年間指導計画の見直し

学びづくり部会では、低・中・高学年で研究グループを作り、人権学習の推進、年間指導計画の見直し、研究授業の充実などに重点を置いた。道徳・学級活道・総合的な学習の時間・生活科の授業を通して、学年ごとの「目指す児童」を育成することができるよう、年間指導計画を見直し、人権教育に関連の深い価値項目を設定した上で、計画的に授業実践できるようにした。全学級で道徳・学級活動で研究授業を行い、事前研究会・事後研究会を通し、人権教育がより深まるよう授業研究に取り組んだ。

② 絆づくり部会の主な活動

- ・ ハートフル集会…アナライザーカードとポートフォリオの活用
保護者や地域の方々と交えての人権学習
- ・ 絆をつくる活動…異学年交流
- ・ ボランティア活動…学校内外の人々との関わり

絆づくり部会では、主にハートフル集会の活動を通して主題にある「互いを認め合い、共に成長する子」を育成できるように、活動内容を考えてきた。学級の枠をこえて、異学年の児童や保護者、地域の人たちなどと直接交流し、意見交換する中で、互いを理解し合い思いやりの心が育つようにした。また、一人ひとりが自分の考えをしっかりと持ち、それを発表したり書いてまとめたりすることで、学んだことを更にほかの人たちへ発信し、広め深めていくことができるよう、活動内容を工夫した。

③ 環境づくり部会の主な活動

〈掲示について〉

- ・ 共通掲示板 学年掲示板「心のキャッチボールコーナー」
1階の掲示板に、人権に関する学校行事・児童たちのボランティア活動、児童の縦割り活動などの取り組みについて掲示した。人権に関する活動の感想を掲示し、「イイネシール」による児童間での相互交流の場を設定した。
- ・ つり下げ掲示「ハートフルストリート」
1階の掲示板横から児童玄関前の廊下にかけて、つり下げ式の掲示スペースを設け、人権に関する行事や児童の縦割り活動などを通して児童が感じた気持ち・伝えたい言葉を写真とともに載せた。
- ・ 交流掲示板「ありがとうコーナー」
ハート形の付箋に、ありがとうの気持ちを書いて貼るスペースを設けた。休み時間など、自由な時間に気軽にメッセージを書けるようにした。
- ・ 「みんなの心ぽっかぽか」スペース
児童が好きな時間に、自由に腰を下ろして本を手にとることのできるスペースを、児童玄関横に設けた。心が温かくなる本、心がほっとする本、夢や希望が持てる本など、人権に関する本を集めた。休み時間や帰りのバス待ちの時間などを利用して、児童がいつでも自由に本を読めるようにした。

3. 特色ある実践事例の内容

ハートフル集会（親子道徳・全校道徳）の実践 ＜絆づくり部会＞

「ハートフル集会」は特別活動の一環としての集会活動ではなく、平成24年度から本校で行われていた「親子道徳」を受け継いだものである。

この親子道徳は、福井県の事業である「親子で学ぶ道徳講座」を実践する形で始められ、親子で一緒に道徳の授業を受けるなど地域や親子のコミュニケーションを深め、世代を超えた道徳的価値の交流を図り児童の道徳性を地域社会全体で高めることをねらいとしている。

本校では、福井県が推進している「親子で学ぶ道徳講座」の3つの内容のうち、「同一資料による道徳的価値の交流」として、その価値に合った絵本の読み聞かせ（本校読み聞かせボランティアグループ：「地域の人材の活用」）を行い、あらかじめ準備した2、3の発問について、児童どうしで意見の交流を行ったり、保護者や指導者の意見を伺ったりして、多様な世代の意見を通して人権感覚を育成するようにした。

平成25年度からは、親子道徳の形に固執せず、道徳的価値を高めるために、「人権集会」として、児童の意見交流を行う場を増やした。

さらに、人権教育研究校の指定を受けた平成26年度からは、「ハートフル集会」と名付け、2グループに分かれて立場の違いを明確にしたり、ゆさぶりの発問を投げかけたりして、意見交流を活発に行い、考えが深まるようにした。

絵本の読み聞かせだけでなく、実際の学校生活の中で児童が困っていることに焦点を当て、問題点を解決したり、少しでも良くなるようにしたりするのはどうしたらよいか、縦割り班で話し合う集会にも取り組んだ。

◆『ぼくのきもち、きみのきもち』（法務省人権擁護局企画制作）の

読み聞かせを使ったハートフル集会

（ねらい）

- ・ 「おもいやり」というテーマについて児童、教師、保護者、地域の人と幅広い年齢層の人が意見を交わすことにより、参加者それぞれが、人は多様な「人間観」を持っていることを理解し、自分の「人間観」を豊かにするための参考にする。
- ・ 児童は、同じテーマで話し合うことを通して、「おもいやり」についてもいろいろな考えがあることを知り、人権感覚を養うための一助とする。

（展開）

紙芝居の読み聞かせを聞く（途中まで）※読み聞かせボランティア ピアノ伴奏付

- ・ アナライザーカードを使って意見交換

① シバ夫とブル太郎の体が入れ替わってしまった遠足の次の日、シバ夫になったブル太郎が学校に行くと、コン介とニャー子がいっしょのようにからかってきました。あなたが、ブル太郎になったシバ夫なら、自分もからかいに加わりませんか。

☆からかう人：赤 からかわない人：青

② からかう人は左側、からかわない人は右側に移動しましょう。

③ 今、いろいろな人の考えを聞いて、考えが変わった人は場所を移動しましょう。

④ 今、場所を移動した人は、どうして考えが変わったのですか。

- ・ 紙芝居の続きを聞く。

⑤ なぜみんなは、「いじめなどしてはいけない」と思ったのでしょうか。

◆『あかいセミ』（福田岩緒著 分研出版）の読み聞かせを使ったハートフル集会
(ねらい)

「いっちゃん」の心のゆれ動きに注目しながら意見交流をすることで、自分に正直に生きることの大切さに気づかせ、よりよい自分を目指そうとする心情を育てる。

(展開)

- ・ 読み聞かせを聞く。(途中まで)

- ・ アナライザーカードを使って意見交換

① 「いっちゃん」は、消しゴムを返すことができますか。返すことができないと思いますか。

☆返すことができると思う人：赤 返すことができないと思う人：青

② 返せると思う人は左側、返せないと思う人は右側に移動しましょう。(互いに向き合う)

③ 返せると思った人、返せないと思った人、それぞれ意見を発表してください。

④ あなただったら、消しゴムを返すことができますか。それとも、返すことができませんか。近くの人と、話し合ってみてください。

⑤ 自分なら消しゴムを返せる人は赤を、返せない人は青を出してください。

⑥ 赤の人は左へ、青の人は右へ移動しましょう。

⑦ 自分ならなぜ返せるのですか、また自分ならなぜ返せないのですか、わけを教えてください。

- ・ 読み聞かせの続きを聞く。(最後まで)

⑧ おばちゃんと「ゆびきりげんまん」をして、「いっちゃん」はどんな気持ちになったでしょう。教室に帰って、クラスで話し合ってみましょう。

⑨ クラスでの話合い

(低)「いっちゃん」はどんな気持ちだったのでしょうか。ワークシートに書いてみましょう。理由も言えたら言ってください。

(高)「いっちゃん」はどんな気持ちだったのでしょうか。ワークシートに書きましょう。また、なぜ謝ることができたのでしょうか。

⑩ 今日の授業をふり返って、分かったことや思ったことを書きましょう。

◆学校生活に即したハートフル集会

(ねらい)

ふだんの学校生活で起きたことを題材に、集団の問題意識を高めることで、どうしたら問題を解決できるか、少しでも解決に近づけることができるかを話し合い、学校生活を快適に過ごすことができるようにする。

(展開)

① 学校生活でいやだなと思ったこと、困ったことを発表し、付せんに書く。

② 「悪口」をテーマに、悪口を言われた場面を4コマ漫画にして、縦割り班ごとに、どうしたら解決するか、少しでも解決に近づけるためにはどうするかを話し合う。

③ 話合いの中身や結論を発表し合う。

- ④ ふり返しカードに評価や感想、意見を書く。
- ⑤ カードに書かれた感想、意見を発表する。

◆読み聞かせとソーシャルスキルトレーニングを取り入れたハートフル集会
(ねらい)

絵本を読んだり、ソーシャルスキルトレーニングでグループ活動をしたりすることで、周囲の優しい言葉かけや行動が、自分に大きく影響することに気づかせる。お互いが温かい気持ちで接することで、自分や他の人を大事にしていこうとする心情を育てる。

(展開)

- ① 『ゼロ』(キャサリン・オートシ作 乙武洋匡訳 講談社)の読み聞かせを聞く。
- ② ゼロは本当に駄目な数字なのか、ゼロのよいところを見つけて発表する。
- ③ 残りの読み聞かせを聞く。(P18～最後まで)
- ④ 自分が嫌いだったゼロが、自分を好きになった理由を発表する。
- ⑤ 「ゼロ」について感じたことを話し合う。
- ⑥ まわりの人の言葉かけが大事であることをおさえ、ソーシャルスキルトレーニング活動を行うことを知る。ア 3人で行う。(学年ペア+親) イ自己紹介をする。 ウ お題について二者択一する。 エ 聞く人：必ずうなずく。 オ 必ず発表者の目を見る。 カ 必ず最後に相手をほめたり認めたりする言葉をかけ、拍手をする。
- ⑦ 実践する。
- ⑧ 実践して思ったことを話し合う。(シェアリング)
- ⑨ 集会の感想を発表する。

※SSTとは、Social Skills Trainingの略で、「社会生活技能訓練」や「生活技能訓練」などと呼ばれ、コミュニケーションの技能を向上させることで、困難なことを解決しようとするもの。小児の分野では「社会的スキル訓練」、教育の分野では「スキル教育」とも呼ばれる。(一般社団法人 SST普及協会HPより引用)

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

◆ハートフル集会「ぼくのきもち、きみのきもち」からの課題

アナライザーカード(赤と青が表裏になった色画用紙)を使って賛成、反対の立場を明示することは以前より取り入れていた。しかし、異学年の意見を聞き、考えが変わった場合に、集会の中で取り上げる場面がなかった。そこで、考えが変わった場合には場所を移動し、その理由を聞く活動を取り入れることで、意見が更に深まると考えた。意見交流は活発に行われ、意見の深まりも見られたが、自分のことに当てはめて考える児童が余り多くないことが課題としてあげられた。

◆ハートフル集会「あかいセミ」からの課題

自分に当てはめて考えさせる場を設けたことで、登場人物の気持ちだけでなく、一步踏み込んで、道徳的価値を自分のこととして捉えることができた。また、学年の発達段階やクラスの実態に応じて教室で話し合うような指導展開にしたが、体育館で異学年の様々な意見に触れた後なので、あらためて自分の考えを見つめ直すことができたし、自分の体験談を交えて話し合う姿も見られ、考えをより深めること

ができた。今後もこのような流れのハートフル集会を続けるとともに、体験的な活動を取り入れるなど展開を工夫していきたい。

◆学校生活に即したハートフル集会からの課題

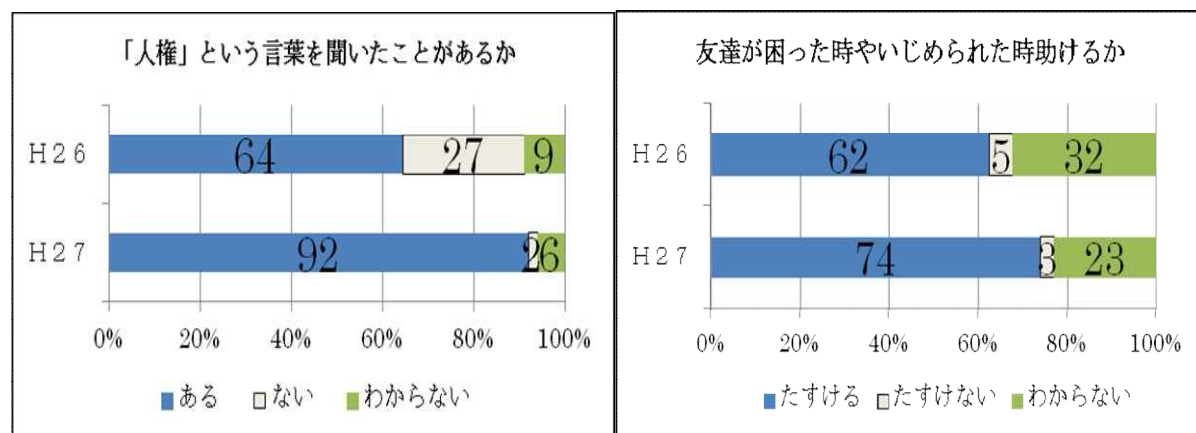
学年によって「悪口」の内容が違ったので、低・中・高学年毎に悪口を言われた場面を変えて、集会を開いた。実際にいやな気持ちになったことについて話し合うので、直接自分たちのこととして捉え、少しでも良い生活ができるようにすすんで話合いができた。集会後には、学校全体で悪口を言われることが減り、欠席もかなり減った。それだけ、明るい気持ちで学校生活を送れたのだと思われる。

縦割り班の話合いは、6年生がコーディネーター役を務めたのだが、班によって話合いの内容に差があったので、6年生を事前にもっと指導しておく必要がある。また、他の児童も事前にクラスで意見を準備しておく必要もある。

◆読み聞かせとSSTを取り入れたハートフル集会からの課題

自分の良いところに気づき、自分を大切にしようとする物語であるが、友達の優しい言葉がけなど、周囲とのあたたかい関係が不可欠であることに焦点を当てた。SSTは初めて導入したが、あたたかい雰囲気の中で、自分の意見だけでなく、友達の意見も大切にする活動ができた。この集会では、保護者にもグループに入ってもらったが、児童だけでも人間関係を築けるような活動を取り入れることで、自他を大切にすることを養うことができるのではないかと考える。

5. 実践事例の実績、実施による効果



このアンケート結果から、「人権という言葉を知ったことがあるか」は「ある」と答えた児童が大きく増え、人権についての知的理解が進んでいることの一端を示している。中学年以上は100%だが、低学年でやや割合が低くなっている。児童のコメントをみると、低中学年では、人権のことを「おもいやり」「人にやさしくする」「親切」と答えているが、高学年になると、「どんな人でも持っている」「人が幸せになる権利」と回答する児童が増えていることから、知的理解が進んでいることを示している。

また、「友達が困ったときやいじめられたとき助けるか」についても「たすける」と答えた児童が増えており、ある程度人権感覚が育成されたのではないかと考える。1、3、4年では、85%（1年は97%）をこえているが、2、5、6年では割合が低くなっている（2年76%、5、6年50%前後）。これは、いろんな場面を想定して答えたり、自分を厳しく見つめていたりするためではないかと思われる。

6. 実践事例についての評価

(1) 研究の成果

- 各教科でも人権教育には取り組んでいるが、人権感覚を養う上で、道徳、学級活動、生活科、総合的な学習の時間が大きな役割を担うと考え、年間指導計画で重点化して取り組んだ結果、先を見通して計画的に授業の実践ができた。「おもいやり」「友情」「個性の伸長」など人権教育に関係の深い道徳の内容を月ごとにテーマとして設定することで、それと関連した学習活動を進めることができた。教職員が人権教育を念頭に日々の活動に取り組むことで、教職員自身の人権意識が深まり、児童一人ひとりの立場や考えを尊重して接するようになった。学習でも、児童のがんばりを認めたり、ほめたりして励まし、児童の意欲を高めるとともに、児童が学習に前向きに取り組めるように配慮することができた。朝の会や帰りの会でも、児童が互いに認め合ったり、ありがとうを伝えたりする活動を取り入れることで、高学年を中心に児童の自尊感情は少しずつではあるが育ってきたように思う。
- 道徳と学級活動については全学級で研究授業を行い、指導主事や人権擁護委員などからの的確な助言を頂くことで、より一層授業研究に取り組むとともに、児童にとってより人権感覚を育成するような学習活動を展開することができた。低・中・高の学年部会が中心となって、学習内容や方法の検討を行ったり、事後の反省や意見交換を行ったりしたことも、互いの研究授業へのよい研鑽になった。
- ハートフル集会では、友情や思いやり、善悪の判断等のテーマごとに、読み聞かせの絵本や紙芝居を選び、互いの意見交流を通して自分の考えを見直すことができた。ピアノ演奏を交えて効果的な読み聞かせをしたり、パワーポイントで視覚に訴えたりしたので、児童は興味深く真剣に聞くことができ、考えてほしい内容を伝えるのには有効であった。また、お話を通して間接的に自分のことを考えられるので意見も出しやすく、自分の考えと比較する上でも効果的であった。赤と青のカードで意思表示をするアナライザーカードを使っの意見交流では、異学年だけでなく、参観している保護者や指導者など大人の意見も聞くことができ、様々な世代のいろんな考え方に触れることで、より広く自分の考えを見つめることができた。集会の後、教室に戻って更に話し合う活動も行った。ハートフル集会のテーマについて、学年の発達段階や実態に即して発問を工夫したので、たくさんの児童が発言でき、より考えを深めることができた。
- 読み聞かせのスタイルだけでなく、児童が困っていることを前向きに捉えるハートフル集会も行った。児童がいやだな、つらいなと思うことを発表し、それを付箋に書いて紹介する活動を行ったところ、児童がストレスを感じる最大の要因は「悪口」「いじめ」であることが分かった。そこで、低・中・高の学年ごとに悪口を言われた場面を具体的に想定して、悪口を言われたり、いじめられたりしたとき、どんな対応をすればよいか、どうすれば解決できるかについて、縦割り班ごとに話し合った。話合いがスムーズにいかなかった班もあったが、いやだなと思うことを少しでも前向きに捉えられるようになった。この集会を行った4月～5月以降、欠席が昨年よりかなり減り、多

くても1日3人ほどで1学期に欠席0の日が24日間あった（昨年度は9日）。

- ・学校の廊下や階段に人権教育や集会活動に関する掲示を行い、人権感覚を養うための環境づくりを行った。中央廊下の「心のキャッチボールコーナー」は活動内容や活動の画像、児童の感想を掲示したことで、児童が自分たちの活動をふりかえることができた。さらに、保護者や来校者にも人権教育について発信することができたのではないかと考える。また、学年掲示板の「心のキャッチボールコーナー」は、ハートフル集会などの活動ごとに児童が書いたふり返しカードを掲示し、同学年だけでなく異学年の児童が意見交流できるようにシールを貼る工夫をしたことで、自分の書いたものが賞賛される喜びを知り、自分を見つめ直す契機になった。また、その後の人権に関する活動への意欲付けにもなった。さらに、中央廊下の「ありがとうコーナー」に貼られた付箋を見たり、学期末にまとめたものを連絡帳に貼ったりすることで、自己肯定感が醸成され、感謝の気持ちが増えていった。

◆保護者の感想

- ・学校全体の前で、自分の意見を発表できる児童が大勢いることがすばらしい。まわりの意見を尊重できる人間関係ができているから、素直に意見が言えるのではないと思う。これまでの人権教育が根付いているからだと思う。
- ・自分を認め、相手を認め、つながっていくことが大切だと改めて感じた。
どの意見も間違いではないということが全体に浸透していて、相手への思いやりが育っていると感じた。

(2) 研究の課題

- ・アンケートからも分かるが、自己肯定感が高いとは言えない。低学年を中心に、能力の差で自分を否定的に見るのではなく、高学年のように級友といいいところを伝え合う活動を取り入れたり、教職員がほめ励ましたりすることで、自己肯定感を高めていく必要がある。また、ボランティアへの意識も高くないので、児童が参加しやすいボランティア活動を計画し、推奨することにより、ボランティアの楽しさを体感させたい。自発的に参加させることにより、人の役に立つうれしさを味わわせ、自己肯定感の高揚につなげたい。
- ・地域へ発信し、地域とともに取り組む人権教育を目指しているが、保護者に浸透しているとは言えないので、情報発信に更に努めるとともに、学校公開などの行事を通じて、学校の教育活動への参加を促していきたい。家庭での会話が促進されるよう、「人権について」という漠然としたものではなく、「思いやり」「ボランティア活動」「友達づきあい」などテーマを決めて、家庭で話し合ってもらえるよう学年だよりなどで勧めていくことも大切である。
- ・ハートフル集会については、読み聞かせの内容によって、児童どうしの意見交流が活発ではない場合があるので、意見を活発に出せるよう、読み聞かせの本の選定や発問の仕方を工夫していく必要がある。また、児童の身近な問題に焦点を当てた集会では、縦割り班によって話合いの内容に差があった

ので、話し合いの中心となる 6 年生が適切にコーディネーター役を務めることができるように指導する必要がある。話し合いに参加する他の班員も自分の意見をきちんと持って参加するよう、話し合うテーマについて事前に考える時間を設定していきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

坂井市立三国西小学校

人権教育の目標を身近な教育課題として考え、それを尊重する心と行動に視点を当てた実践的な取組をしている。特に学力向上の面で、分かりやすい授業の工夫や個別指導の充実に努め、朝読書・朝学習、月末漢字計算テストや及び算数WEBテストなどが注目できる。また、子供の豊かな人権感覚の育成を目指し、保護者や地域の方々と交えた人権学習や絆（きずな）を深める異学年交流活動、校内外でのボランティア活動の実践を深め、道徳教育や特別活動との連関を図り、教育課程上の位置を明確にしている。

本校の特色の一つである「ハートフル集会」では、学校生活での日常を題材に集団の問題意識を高めることを意図している。どうしたら問題解決できるのか、その解決の在り方を話し合う、快適な学校生活に生かすなどの具体的かつ行動的な学びは論理的な思考力や発表力、自己理解の深化など日々の学習活動にも応用可能な人権教育といえる。